

牛ウイルス性下痢・粘膜病を 予防しましょう！

牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）とは

BVDウイルスの感染により、発熱、下痢、血便、呼吸器病を起こし、妊娠牛に異常産や繁殖障害を起こす届出伝染病に指定されている病気です。

多くは、一過性で回復しますが、**妊娠牛**が感染すると、**持続感染牛（PI牛）**が生まれることがあり、大きな経済的損失を招きます。

持続感染牛（PI牛）とは？

- 外見的には異常がなくても、生涯にわたって鼻汁や糞尿に大量のウイルスを排出し続け、**感染源**となる牛のことです。
- 妊娠牛（胎齢18～125日）が感染すると、免疫が未熟なため胎児はPI牛となることがあります。
- PI牛からは必ずPI牛が生まれ、PI牛には有効な治療法がありません。



BVD-MDによる呼吸器症状
(出典:家畜疾病カラーアトラス)

PI牛は鼻汁等の中にウイルスを排出します。

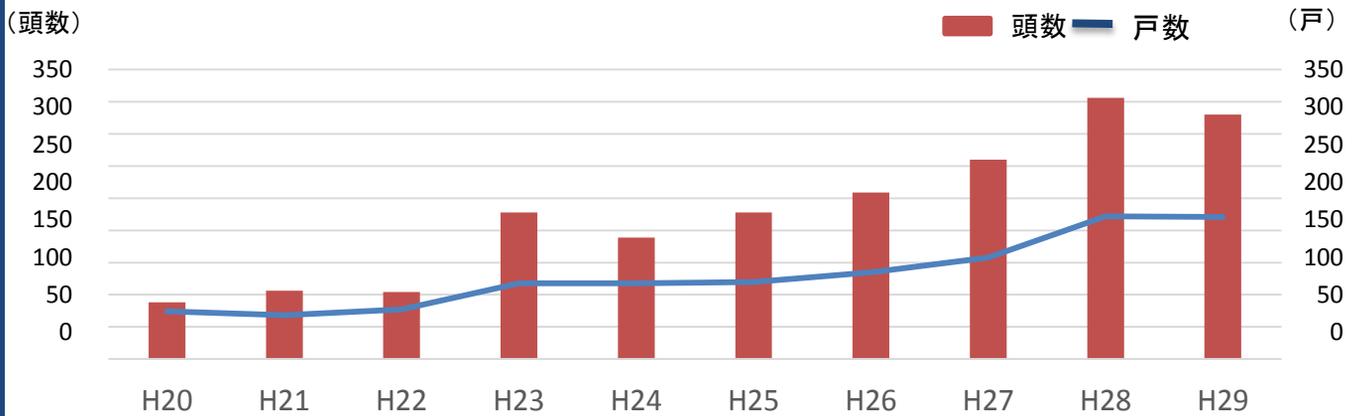
飼養している家畜に異状がみられた場合には、直ちに獣医師または家畜保健衛生所に連絡してください。

三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所

TEL: 0178-27-7415 FAX: 0178-27-7418

土日祝祭日の場合は、家保携帯 090-7069-7714

牛ウイルス性下痢・粘膜病の発生状況（国内）



近年増加傾向にあり、全国的なまん延が危惧されています。

予防対策

地域一体となって取り組みましょう

1 ウイルスの侵入防止

- ✓ 畜舎や車両の消毒、毎日の観察による異常牛の早期発見、導入牛の隔離・観察など飼養衛生管理基準の遵守を徹底しましょう。
- ✓ 消毒には、アルコール系、次亜塩素系、逆性石けん等が有効です。



隔離牛舎にも消毒槽を設置

2 PI牛の早期淘汰

PI牛に対する治療法はありません。PI牛が確認された場合は速やかに自主とう汰を行い、感染の広がりを防止しましょう。

3 ワクチン接種の励行

感染予防及びPI牛の産出のリスク低減のため、ワクチンを接種しましょう。なお、妊娠期間中に生ワクチンを使用すると出生子牛がPI牛となる可能性があるため、不活化ワクチンを使用してください。